

R-1:国際専門員会セッション

開催日時・会場 9月14日(火曜日) 15:50 - 17:20 WEB-ONLY

INORMS 2021 and Beyond (次なるステージへ向かうRA協議会の国際的活動)

2001年10月にカナダ・バンクーバーの朝食会の席で産声を上げたInternational Network of Research Management Societies (INORMS)。アメリカ同時多発テロ事件発生直後の混乱と対立が漂う中で、research management and administration (RMA) に関わる専門職達の国際的な連携や協力、交流の必要性を感じたRMAコミュニティーのリーダーたちが立ち上げた国際的コンソーシアムです。INORMS設立20周年にあたる今年、その第8回世界大会をRA協議会が開催しました。RA協議会が第8回世界大会の主催組織として選定されたのは2017年4月。以来、組織・プログラム・実行という三つの委員会の構築から始まり、公式ウェブサイト立上げ、参加登録開始、スポンサーとの折衝、プロモーション活動、セッションやポスターの審査選定、プログラム内容の策定など、多くの大学のRA協議会会員に参画いただき準備が進んでいきました。コロナ禍が始まって以降は、一年間の延期、さらには対面式からバーチャルへの開催方式の変更、広島での小規模なハイブリッド開会式計画の準備と直前中止など、まさに激動の一年半でした。RA協議会内の関係者だけでなく、INORMS加盟の姉妹組織、その他様々な内外のステークホルダーの温かな支援と理解を得て準備が進められ、『広島宣言』発表で幕を開いた第8回世界大会は6月末に終了することができました。RA協議会が世界大会の準備運営を通じて築き始めた海外のRMAコミュニティとのネットワークをさらに展開させて、第9回世界大会が南アフリカのダーバンで開催されるまでの2年間は、INORMSというコンソーシアムの活動を、RA協議会が事務局としてリードすることになります。本セッションでは、第8回世界大会の準備運営における貴重な体験をセッション参加者と共有したいと思います。INORMS 2021の委員会メンバーより、プログラム、集客プロモーション戦略、スポンサー獲得戦略、パブリシティ、財務・登録、ローカル運営のチームリーダーに良かったことや苦労したことなどをざっくばらんに語ってもらいます。セッション前半の振り返りで同定された可能性や課題を念頭に、セッション後半では、今後のRA協議会にとっての、また一層広く日本のRMAに関わる人材にとっての国際化とは「何か?」「どうあるべきか?」を、登壇者だけでなく、セッション参加者と共に議論したいと思います。

オーガナイザー

三代川 典史: 広島大学・学術・社会連携室 URA部門・
シニア・リサーチ・アドミニストレーター



在東京オーストラリア大使館教育部勤務の後、修士号をロンドン大学（教育政策学）、シンガポール国立大学（公共政策）で獲得。米国ペンシルベニア州立大学でPh.D.（高等教育管理）を取得後、同大学グローバル事業本部で本部長付研究員として勤務。2014年より広島大学研究企画室に所属し、研究活動の国際化推進を担当。ライティング・センター、国際科学広報、国際会議開催支援等の運営を統括。INORMS2021では、実行委員会委員長。

講演者

三宅 雅人: 奈良先端科学技術大学院大学・研究推進機構・准教授 国際共同研究担当ディレクター



英国ケンブリッジ大学教員、国内外の半導体装置メーカーのテクニカルマーケティングマネージャー、新規技術分野推進室・室長を経て、2014年1月にURAとして本学に着任。その後、研究推進機構の准教授に、現在は、国際共同研究推進並びに産官学連携・地域連携業務を行っている。また、2020年より戦略企画本部IRオフィス並びに2021年からは地域共創推進室の室長補佐として、幅広い業務に携わっている。INORMS2021では、プログラム委員会委員長。

園部 太郎: 京都大学・学術研究支援室・リサーチアドミニストレーター(URA) 国際グループ サブリーダー



2004-2007年にタイ国キングモンクット工科大学トンプリ校エネルギー・環境大学院大学(Ph. D課程)在籍中に、京都大学21COE調査研究員としてアジア学術交流ネットワーク形成に従事。2007年より京都大学で研究員、特定助教を経て2012年より現職。現在は、京都大学ASEAN拠点、欧州拠点の駐在担当URAとして国際連携を担当。INORMS2021実行委員会では、集客プロモーション戦略チームのリーダー。

十津川 剛: 東京都立大学・総合研究推進機構・上席URA / URA・産学連携専門課長



早稲田大学教育学部卒。広島大学理学研究科博士課程修了、博士(理学)。NJ州立ラトガース大学、三菱化学生命科学研究所、九州大学医学研究院にて細胞生物学研究に従事。その後、JST国際科学技術部、東京農工大学URAを経て2017年から首都大学東京主幹URA。現在東京都立大学URA専門課長/上席URA。INORMS2021実行委員会では、スポンサー獲得戦略チームのリーダー。

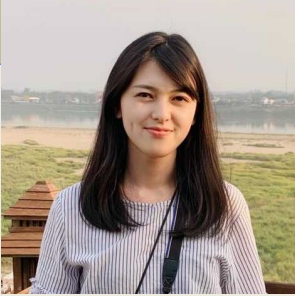
Jason Sanderson: 熊本大学・研究・産学連携部国際戦略課・リサーチ・アドミニストレーター(URA)



モンタナ州立大卒 (Biomechanics)。在学中、熊本学園大学交換留学生として初来日、1年間滞在。帰国後、モンタナ州立大学国際教育コーディネーターとして勤務。その後、米国オレゴン州カシービルスにてBiomechanics研究に従事。文科省奨学金を受け再来日し、熊本大学自然科学研科博士課程修了後、同大学で特別研究員を経て、熊本大学URAとして就任し、国際外部資金、外国人研究者のサポートを担当。INORMS2021では広報チームリーダー。

講演者(つづき)

坂井 華海:熊本大学・研究・産学連携部 研究推進課・ URA研究員



九州大学地球社会統合科学府包括的東アジア・日本研究コース修士課程修了。2019年より熊本大学でURA研究員として勤務。外部資金獲得、研究広報業務等に従事。熊本大学URA推進室のTwitter日本語アカウント・英語アカウントを担当。INORMS 2021実行委員会には2020年夏より参加。パブリシティーチームに所属。

清戸 義博:広島大学・学術・社会連携室 URA部門・ シニア・リサーチ・アドミニストレーター



広島大学で長年にわたり財務関係業務に携わり、2018年からURAと事務職員が協働して研究支援を行う研究企画室において副室長に着任。2021年4月から学術・社会連携室URA部門長。併せて、広島大学と東広島市の学術連携を推進するため、東広島市参与(学術連携担当)に就任。INORMS 2021実行委員会では、財務・登録チームのリーダー。

荒木 裕子:広島大学・学術・社会連携室 URA部門・ リサーチ・アドミニストレーター

NO
PHOTO
AVAILABLE

英国・エセックス大学美術史学科修士課程修了。2006年から広島大学で勤務。国際協力研究科COEプログラムでポスト・アワード業務、高等教育研究開発センターで学内発行雑誌の編集業務等に携わった後、2014年からライティングセンターの研究環境基盤整備に従事。2020年からは、人社系URAとしてプレ・アワード業務にも従事している。INORMS 2021実行委員会では、ローカル運営チームのリーダー。